



子どもの歯並びと健康のお話



乳歯の歯並びから永久歯の歯並びへ

乳歯は生後6~7か月で生え始め、2歳半くらいで20本の乳歯が生えそろいます。乳歯は上下の前歯の先っぽどうしが当たるように咬み合い、また歯と歯の間のすき間が多いのが普通です。

これらの特徴が、永久歯をきれいな咬み合わせに誘導してくれ、きれいな永久歯の歯並びを作ってくれます。

乳歯の虫歯が歯並びに悪影響

乳歯に虫歯があり、形が大きく変わってしまったり、歯と歯の間のすき間がなくなってしまうと、永久歯が出てくる場所が狭くなって永久歯の歯並びを悪くすることがあります。ですから、乳歯の虫歯は放置せず、できるだけ早く治療を受けさせてあげましょう。

歯並びの不正がさらに虫歯や歯周病、全身疾患へ

歯並びがよいことは見た目がよいだけでなく、歯ブラシで汚れが除去しやすいので、虫歯や歯周病になりにくくなります。歯並びが悪いと、食べ物が咬みにくく消化器系の病気になりやすかったり、虫歯や歯周病などによる口臭の原因になります。また、これらの原因菌が多くの全身の疾患に悪影響を及ぼしています。

子どもの虫歯や歯並びは大人の責任

子どもの虫歯は大人の責任ですが、歯並びも同様に大人の責任です。食べる物や食べ方の工夫をしてやること、また永久歯への交換期にちょっと注意してやるだけで、ずいぶん歯並びを悪くしないで済ませることができます。子どもが小さいときから、掛かりつけの歯科医を作って、定期的にチェックをしてもらい、必要があれば専門医に診てもらえるようにしてもらいましょう。そうすることで子どもたちの将来の健康状態をよりよくしてあげることができます。

